

# フードケアシンポジウム開催 Review - 2022 -

## 第1回「フードケアシンポジウム」を開催いたしました

テーマ：**摂食嚥下機能低下に対するアプローチ ～多職種の輪を広げよう～**

日時：2022年11月12日（土） 第1部 13:30-16:15、第2部 16:20-17:00、開催形式：オンライン配信

### 「フードケアシンポジウム」開催に込めた想い

普段知る機会が少ない、全国各地の「多職種連携の成功事例やヒント」に触れ、院内や地域の枠を超えて、**全国各地のつながりのきっかけ**になればとの想いを込めて開催しました。

- 医療・介護現場の明るい未来、また患者・ご利用者のQOL向上において「多職種連携」は重要なキーワードです。
- 第1部は**栄養・口腔ケア・リハビリテーション**の3つの異なる分野から各3名の先生にご登壇いただき、第2部では「多職種連携におけるお悩みを他職種で考える会」をテーマに座談会を行いました。
- 今回ご登壇いただいた先生方は、弊社の営業担当の推薦により選出させていただきました。



#### フードケアシンポジウム ロゴマーク

栄養・口腔ケア・リハビリテーションそしてフードケアが1つになり、医療・介護における「多職種連携」を推進したいという想いを込めたロゴマークです。「栄養」「口腔ケア」「リハビリテーション」「フードケア」をそれぞれのパズルに見立てております。

### フードケアシンポジウムを通して

今回のシンポジウムでは計10名の先生方にご登壇いただきました。どの先生も「**患者様一人ひとりのために**」という熱い想いをもって、日々活動されていると感じました。また、多職種連携を行っていく上では、相手への「敬意と感謝」を意識しているとお話しいただき、どんな仕事においても『**ありがとう**』を伝えることが大切であると再認識いたしました。我々も感謝を忘れず、皆様のお力になれるような製品・情報をお届けできるよう精進してまいります。最後に、座長を務めてくださった金沢先生、並びにご講演をしてくださりました9名の演者の先生方に心より御礼申し上げます。

株式会社フードケア オンラインセミナー事務局

座長の金沢先生、ご登壇いただいた先生方の発表内容や感想をご紹介します。

座長  
スワローウィッシュクリニック  
院長 金沢 英哲 先生



座長

金沢 英哲 先生 Hideaki Kanazawa

スワローウィッシュクリニック 院長（医師）  
日本耳鼻咽喉科学会専門医  
日本摂食嚥下リハビリテーション学会 評議員 他

#### 金沢先生からの一言

あっという間の3時間半でした。今回登壇した皆さまは、職場で初めての職種であったり、お一人の活動から協力者の輪を広げていった方が多くいらっしゃいました。そのような苦労話も聞くことができ、皆さんの芯の強さを感じました。

「多職種連携」に悩みはつきものですが、今回のシンポジウムを通じて、多職種連携を継続していくためには「**患者さんとの間に生まれた成功体験**」が必要であり、その芯になるのは「患者さんにとって価値のある医療提供」だと再認識しました。そして、私も座長の経験が明日からの新たな活力になりました。いつか登壇者の皆さんに直接お会い出来る日を楽しみにしています！



# リハビリテーション

## リハビリ 1

### 慢性期病院におけるジェントルスティムの導入と活用 ～口から食べるを叶える～

#### リハビリテーション

西山病院

言語聴覚士

山本 梨花子 先生



#### 発表概要

- 西山病院では、超高齢で認知症を合併した慢性期の嚥下障害患者が多く、指示理解困難で間接的嚥下訓練が成立しないことに難渋されていました。
- 電極を貼って電流を流すだけで嚥下機能が改善するジェントルスティムに会い、摂食嚥下リハビリテーションの幅が広がったとお話いただきました。
- 病棟スタッフへの教育体制、トラブル回避方法など現場での事例が大変分かりやすかったです。

#### 座長からのコメント

ジェントルスティムの適用を幅広くとらえて、スタッフ皆が、患者さんのために日常的に使えるようにしたことや、慢性期医療で温かく可能性を求めながら活動されていることが素晴らしいです。

#### 山本先生の感想

登壇された皆様の中に、私と同じ境遇を経験した方が多くいらっしゃって、様々な気持ちが思い起こされました。金沢先生に「慢性期で熱い思いを持って活躍している人が大事」とお褒め頂き、とても励みになり、今まで頑張ってきて良かったと思いました！

医療法人社団一穂会 西山病院 (言語聴覚士)

山本 梨花子 先生 Rikako Yamamoto (静岡県)

院内初の ST として入職、リハビリテーション課 主任  
医療療養病床：158 床、介護医療院：113 床  
ジェントルスティム：6 台 (各病棟 1 台) ※ご講演時

## リハビリ 2

### 回復期リハビリテーション病棟におけるジェントルスティムの活用状況について

#### リハビリテーション

初台リハビリテーション病院

言語聴覚士

井上 典子 先生



#### 発表概要

- 回復期リハビリテーション病棟では摂食嚥下障害を有する患者が多く、より早い段階からより安全に経口摂取を進めるために、効果的・効率的な摂食嚥下リハビリテーションを行う必要があるそうです。
- 初台リハビリテーション病院では現在 30 名を超える ST が在籍し、病棟に所属して摂食嚥下リハビリテーションを提供されています。
- 2021 年度の経管栄養離脱率が 64.9%。また 2021 年度の入院患者の食事形態の変化について、嚥下調整食対応の割合は、入院時 29%だったのに対し退院時は 16%でした。
- ジェントルスティムは経験の浅いスタッフでも比較的容易に訓練に導入できるメリットがあり、看護師とも情報交換しながら更なる活用を検討されているとのことでした。

#### 座長からのコメント

伝統と最先端の取り組みを長年に続けてきた病院から、摂食嚥下リハビリテーションの取り組みをデータで可視化したご発表をありがとうございます。

#### 井上先生の感想

これが無料のセミナーでいいのかと思うようなお話を聴くことができ、大変勉強になりました。

医療法人社団輝生会 初台リハビリテーション病院  
(言語聴覚士)

井上 典子 先生 Noriko Inoue (東京都)

病棟のセラピストのマネジャー  
病床数：179 床 (全回復期リハビリテーション病棟)  
脳血管障害：75.9%  
ジェントルスティム：4 台 (1 病棟 1 台) ※ご講演時

## リハビリ 3

### 摂食嚥下リハへの多職種アプローチ ～摂食機能療法の算定実施を含む～

#### リハビリテーション

佐野厚生総合病院

摂食・嚥下障害看護認定看護師

小林 佳子 先生



#### 発表概要

- 佐野厚生総合病院では 2020 年 9 月より嚥下支援チーム活動 (耳鼻咽喉科医主導) を開始し、摂食嚥下障害を持つ患者様に介入され、嚥下支援チームの活動として摂食機能療法の算定をしてもらっていました。
- 摂食機能療法の年間平均算定件数は約 2,000 件で、脳神経系疾患、呼吸器系疾患の対象者が多く、院内の嚥下障害患者の診察の流れを「経口摂取開始のためのフローチャート」を交えてご紹介いただきました。
- 摂食嚥下障害を持つ患者様の診察・評価では、経口摂取の是非ではなく「どうすれば安全に食べられるのか」の視点で実施されているというお話が印象的でした。

#### 座長からのコメント

チームアプローチの中心を看護師が担うという情熱を持って、そしてその情熱を実践する小林さんのような方がどの病院にも必要で、その存在が期待されていると強く感じました。

#### 小林先生の感想

先生たちの素晴らしい講演を聞いて、私も急性期病院も頑張らなきゃいけないと思いました。在宅や施設で患者様に合わせたケアをされていることをうらやましく思うと同時に、急性期病院でもなるべく近いケアをできるようにして、在宅・施設につなげたいと感じました！

佐野厚生総合病院 (看護師)

小林 佳子 先生 Yoshiko Kobayashi (栃木県)

摂食・嚥下障害看護認定看護師  
病床数：531 床、二次救急病院、平均在院日数：12.8 日  
ジェントルスティム：9 台 (急性期病床全ての病棟に 1 台ずつ) ※ご講演時

# 口腔ケア

## 口腔ケア 1 当院における口腔ケアへの取り組みとジェントルスティムの試用結果について

### 口腔ケア

JA鹿児島厚生連病院  
言語聴覚士  
吉良 理美 先生



JA 鹿児島厚生連病院 リハビリテーション科（言語聴覚士）

吉良 理美 先生 Satomi Kira（鹿児島県）

院内初の ST として入職（ST 部門開設）

病床数：184 床

歯科口腔ケアチームで週 2 回病棟ラウンド（嚥下評価や口腔内環境の確認）

### 発表概要

○JA 鹿児島厚生連病院は、癌、消化器・呼吸器疾患の患者様が多く入院されています。

○口腔内の乾燥が強い患者様の負担を軽減させるため保湿剤（2 種類）を使用し、患者様のご要望に合わせて選択されておりました。保湿剤の種類は、塗り広げやすさ、汚れや粘膜へのなじみやすさ、味などで選択されていました。

○後半は、統合失調症・アルツハイマー型認知症で積極的なリハビリが困難な事例で、ジェントルスティムの試用により経口摂取が継続できた症例報告をお伺いしました。

### 座長からのコメント

ST による院内での口腔ケアの啓発と実践は、人手的にも、職種認知度的にも道のは大変だったと思いますが、パワフルな活動のご発表をありがとうございました。

### 吉良先生の感想

皆様の話が本当に身に染みて、全国どこでも悩みがあると分かりました。しかし、頑張っただけで動き出した皆様がいたので、結果が出てきたのだと感じました。病院内で ST1 人ですが、今日発表したことを糧に今後も頑張ります！

## 口腔ケア 2 口腔、咽頭のトータルケアを考える

### 口腔ケア

朝日大学  
歯科医師  
多田 瑛 先生



朝日大学 歯学部 口腔病態医療学講座 摂食嚥下リハビリテーション学分野（歯科医師）

多田 瑛 先生 Akira Tada（岐阜県）

朝日大学病院（病床数：381 床、70 歳以上の患者様が約 6 割）で臨床にも従事

### 発表概要

○口腔機能低下症の患者様に「口腔・咽頭」を意識したトータルケアを実施した症例を紹介していただきました。

○症例紹介を通し、摂食嚥下機能を改善するためには、口腔機能、全身機能、栄養状態、嚥下機能をトータル的にケアすることが重要であり、トータル的なケアには、多職種との情報共有、介入が望まれることをご教示いただきました。

○継続的なオーラルピースの使用により、舌がきれいになっていく様子が印象的でした。

### 座長からのコメント

教育講演のようにきれいにまとまった講演で、非常に話が理解しやすかったです！

### 多田先生の感想

全国の皆様の活動を知る機会となりました。特にコロナ禍ではそのような機会が少ないため内ばかりを見て、視野が狭くなりますが、皆様の患者様に対するアプローチを参考にさせていただきます！

## 口腔ケア 3 訪問リハにおける口腔ケアの重要性

### 口腔ケア

介護老人保健施設 末広荘  
言語聴覚士  
田口 義久 先生



医療法人社団厚善会 介護老人保健施設 末広荘（言語聴覚士）

田口 義久 先生 Yoshihisa Taguchi（長崎県）

副施設長

僻地離島（五島）で ST として 21 年以上従事

老健：50 床、病院：50 床 他、急性期病院で週 1 回勤務  
ジェントルスティム 1 台

### 発表概要

○訪問リハでは看取りを含めた依頼もあり、在宅で経口摂取を継続するためには口腔ケアが特に重要であるという事を、2 症例を通し、紹介していただきました。

○両ケースとも食事が困難と判断されてから 2～2 年半ほど訪問リハで介入され、ご家族から「たくさんの人に支えられながら、口から食べることを継続できたことが一番嬉しかった」と言葉をいただいたそうです。

○限られた医療資源の中で、病院・施設・訪問等の施設が協力した体制作りが印象的でした。

### 座長からのコメント

病院～施設～在宅を横断して各事業所の垣根を超え、国や地域が定めている既存のサービスにとまらない活動というのが素晴らしいです！

### 田口先生の感想

皆様から色々なお話を聞いて、手に汗握りながらモチベーションは爆上がりでした（笑）明日からもっと頑張ろうという、いい機会になりました！



## 栄養 1 経営的視点から考える厨房運営 ～ニュークックチル導入に至る過程と現状～

### 栄養

特別養護老人ホーム白熊園  
管理栄養士  
川原 瞳 先生



社会福祉法人白熊会 特別養護老人ホーム白熊園  
(管理栄養士)

川原 瞳 先生 Hitomi Kawahara (福岡県)

栄養経営士  
ユニット型、平均年齢 89.3 歳、平均要介護度 4.06、  
直営給食  
2023 年度 看護小規模多機能型居宅介護施設を開設予定

### 発表概要

- 白熊園はこれまで、給食業務は委託給食会社に委託していました。しかし、厨房職員の高齢化や法人内の新規事業立ち上げをきっかけに厨房運営を全体で考え、構想約 1 年半を経て 2021 年 10 月にニュークックチル、2022 年 2 月に直営を導入されています。
- 導入後は、厨房での支出を約 1,000 万円 / 年減らすことができ、改装工事のインシャルコストも数年で取り返すことができる見込みだそうです。
- 導入までのプロセス、導入のメリット・デメリットに加え、「お粥ゼリーは、ニュークックチルで前日に 1 日分まとめて調理する」など給食の工夫をお教えいただきました。

### 座長からのコメント

施設の職員が単なる利益追求ではなく、「患者愛」を継続・実現するために経営観念を持っているという事が、すごく伝わってきました。

### 川原先生の感想

皆さんも頑張っているということを知り、励みになったので今後も取り組みを頑張っていきます。

## 栄養 2 加水ゼロ式調理法の導入から 1 年 ～加水代わりにお粥ゼリーを用いたコード 2 相当のペースト食～

### 栄養

今津赤十字病院  
管理栄養士  
内海 斉美 先生



日本赤十字社 今津赤十字病院 栄養課 栄養係長  
(管理栄養士)

内海 斉美 先生 Naomi Utsumi (福岡県)

栄養課 栄養係長  
病床数:180 床、平均在院日数:117 日、平均年齢:81.6 歳、  
直営給食

### 発表概要

- コード 2 相当のペースト食は、加水による嵩の増加や喫食重量に対して栄養価が低いことが課題であったことから、加水ゼロ式調理法を導入されています。
- 導入後は、これまでよりも食べやすくなった (形態・味・量)、とろみ調整食品・栄養補助食品の使用量が減った、栄養指導がしやすくなったなどのメリットを他職種含めて感じているそうです。
- 加水代わりに使用するお粥ゼリーをまとめて作り、冷凍ストックする工夫等もご教示いただきました。

### 座長からのコメント

慢性期・精神科の病棟や、多くの認知症患者を大切にみている病院ならではの、きめ細やかな対応が大変勉強になりました。

### 内海先生の感想

発表を通し今までやってきたことの再確認ができたので、新たな目標に向かって頑張っていきます。

## 栄養 3 在宅での食支援ポイント ～多職種チーム・もぐまごの活動～

### 栄養

医療法人社団まごころ  
言語聴覚士  
宮阪 美穂 先生



医療法人社団まごころ (言語聴覚士) ※訪問事業所

宮阪 美穂 先生 Miho Miyasaka (千葉県)

四街道市内で初の訪問言語聴覚士  
千葉県言語聴覚士会理事・副会長  
事業内容:訪問診療・訪問リハビリテーション・居宅療養  
管理指導/訪問看護 (リハビリ含む)

### 発表概要

- 近年、入院期間短縮や地域包括ケアの整備により、在宅療養者は多様化しています。また、長引くコロナ禍も相まって、在宅療養者だけでなく、それを支える家族も外出の制限、社会とのつながりが希薄となっているそうです。
- そんな背景の中、医療法人社団まごころでは 2018 年宮阪先生の入職により、摂食嚥下患者様のフォローが可能となり、有志を集めた栄養・摂食嚥下チーム「もぐまご (もぐもぐまごころ)」を発足されました。翌年には管理栄養士の入職により、一層厚みを増したチームの活動をお伺いしました。
- ご講演の中で、メーカーも患者様をサポートする一員であるというお言葉をいただき、メーカーの活用についても触れていただいた点が印象的でした。

### 座長からのコメント

在宅の中で「ST として」という誇りをもって活動され、病院勤務時よりもさらに「ST としてできること」の環を拡げ、活き活きと活動されていることが伝わりました。法人内初の ST であるパイオニアとしての活動が素晴らしいです。

### 宮阪先生の感想

自分の取り組みは小さなものと思っていますが、皆さんのお話を聞き、自分の取り組みは間違っていないんだと再確認することができました！また登壇できるよう頑張っていきます。